

議事等	議事要旨
建設部長挨拶	市民主体の河川清掃活動は流域治水の理念に沿った全国に誇る取り組みだと感謝している。これまでの委員会での「気候変動対応としてはまちの機能を麻痺させないことが重要」といったご意見を受け、今後は「溜める」対策の強化を図っていきたい。
議事説明	<p><b>【事務局より 1)～5)の説明】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 目的とスケジュール</li> <li>2) 第2回検討委員会の意見等</li> <li>3) 現行対策の効果検証</li> <li>4) 方針と目標</li> <li>5) 考えられる対策</li> </ol> <p>※流域対策については佐賀県、佐賀河川事務所より説明</p>
質疑応答 現行対策の効果検証	<p><b>委員長)</b> 中期対策の後期後、長期対策では浸水面積はあまり減らないようだが、長期対策は必要だという認識でよいか。</p> <p><b>事務局)</b> 今後の対策は、一概に浸水面積の低減だけで効果を表現するのは難しいが、確実に効果はあり、今後進めて行く必要性のある事業である。対策の効果として、浸水時間の短縮など新たな評価指標を検討していく。</p> <p><b>委員長)</b> これまでの対策効果については数値で表していただいたので、佐賀市としてアピールしていいのでは。</p>
方針と目標	<p><b>委員長)</b> 現計画の目標は定量的であるが、新計画として追加する気候変動対応では数値目標は難しいのか。</p> <p><b>事務局)</b> 超過降雨の場合、潮位や降雨波形などの影響も大きく、一概にピーク雨量だけでは表現できないと判断している。山間部や平野部など雨の降る場所にもよるため、現状では単純な数値目標設定が難しく、定性的な表現にならざるを得ない。</p> <p><b>満石委員)</b> 気候変動対応のプラスα対策は都市機能誘導区域に限定するのか。そうであれば、例えば、嘉瀬川右岸地区での貯留対策とは矛盾するのでは。</p> <p><b>事務局)</b> プラスα対策をすることで現行計画の更なる強化も図っていくこととしている。</p> <p><b>委員長)</b> プラスα対策が都市機能誘導区域だけに限定しているような誤解を与えるのでその点を修正いただきたい。</p> <p><b>事務局)</b> 目標の表現については内部で再度検討し、委員長と協議の上で後日委員の皆様へ回答させていただきたい。</p> <p><b>武藤委員)</b> 気候変動対応で定量的目標設定が難しいことについては理解するが、「浸水時間を○時間減らす」といった検討では、何らかの降雨量の設定は必要ではないか。</p> <p><b>事務局)</b> 数値設定の検討では降雨量や降雨波形は定量的な設定を行う。</p>
考えられる対策	<p><b>森委員)</b> 今後「溜める」対策を進めて行くことは当然と思う。校庭については小中学校だけでなく佐賀駅周辺の高校にも取組を拡大すると効果があるのでは。その他、市内の要所排水路周辺の学校のグラウンドを掘り下げて貯留に活用するとよいと思う。</p> <p><b>事務局)</b> 掘り下げる案の他に、小段(壁)を作って周辺を囲い溜める案も考えていく。</p> <p><b>小城原委員)</b> 学校のグラウンドの利用を考えると、表面に貯留すると苦情がでるのでは。水路の浚渫や水草対策を推進してほしい。</p> <p><b>事務局)</b> グラウンドの貯留は各学校の実態に応じて溜めるタイミングや復旧についても考えていく。水路の浚渫や水草対策については、現状把握を行い引き続き進めていきたい。</p>

	<p><b>委員長)</b> 国からの説明にあった考えられる対策3について、国道34号で分断するのはまずいのではないか。</p> <p><b>古賀委員)</b> この解析は、この場所での対策を実施するという意味ではなく、国道34号付近に仮に高盛土を設置し流れを止めた場合、佐賀駅周辺にどのような効果があるかを示したもの。この対策を実施する場合、当然、上流側の浸水を助長しないよう雨水を嘉瀬川等の周辺の河川へ東西に「逃がす」対策も必要であり、そのような対策についても今後検討を進めて行く必要がある。</p>
まとめ	<p><b>委員長)</b> 新計画の方針については了承ということで決定する。目標については、一部修正が必要であるが、現計画と気候変動対応の2段階の目標設定で良いということで進める。</p>